

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑪保護者との連携・協力と相談支援

- ◆ グループワークで、視線や姿勢、距離、話し方、聞き方でコミュニケーションに影響が出ることを実感しました。相手に自分の思いを伝えるためには相手への思いやりが大事だと改めて思いました。私は伝えたいことがあるとその思いが強くなって、つい専門的になったり早口になって後から反省することが多いです。保護者に自分の思いを伝え、連携協力してもらうためには、そこに信頼関係があるかが重要だと思うので思いやりをもって保護者と向かい合いたいです。
- ◆ 保護者と支援員は、連携がとても大事だということがよく理解できました。大人も同じかもしれませんが、なかなか自信を持ってない子どももいると思いますので、私たち支援員がある程度の距離感を保って、柔軟な思いやりのある心をもって接することがとても重要だと思います。不安や悩みに寄り添い、子どもへの愛情や成長に共感できる関係性が理想のように思いました。
- ◆ 保護者が迎えに来たときには、放課後児童クラブでの生活の中で、集中して取り組んだことや、友達との関わりで良かったことなどを意識して話すようにしています。そのときに保護者への対応スキルで実践した目線や表情などを意識して話すによりよいということ、また、「ほめる」「認める」は「子育てをほめる」など保護者の生き方をほめることにも繋がるということを学びました。保護者との連携の在り方は信頼への第一歩だと思いました。
- ◆ 保護者に子どものことを褒めて伝えることを常に心がけていましたが、その子の親であることを褒めて伝えることの大切さを学びました。保護者からの相談は、大抵迷いや不安が多く、その悩みに寄り添うときは、絶対に保護者を非難したり否定したりしないこと、そして保護者の感情に巻き込まれないことが重要と理解できました。どんな相談であれ、別れるときには笑顔で「じゃ、また明日！」と言える関係性（距離感）でいたいと思います。
- ◆ 保育者へ思いを正しく伝えることは簡単ではないからこそ丁寧な関わりが必要です。伝えたいことではなく伝わったことが真実という言葉が心に響きました。様々な理解の仕方、寄り添い方があり、その保護者によって悩みも違い、性格も打ち解け方も違ってきます。自分なりに工夫して、一回で解決しようとせず、傾聴・受容・共感的理解を繰り返しながら、共に考え、共に歩いていくことを大切にしていきたいと思います。